

農事組合法人 供給センター長崎

主な取扱品目

(秋・春) じゃがいも・
(春) 玉ねぎ・春に
んじんなど

視察日: 2011年12月9日

所在地: 長崎県南島原市加津佐町丁 2546 番地

設立年月日: 1981年 南高農民組合発足

生産者数: 正会員 33名 準会員 6名



火の国野菜の会

主な取扱品目

塩玉ねぎ・人参・里芋・ごぼう・レ
タス・オクラ・キャベツ・ミニトマ
ト (アイコ) ミディ・さつまいも

視察日: 2011年12月10日

所在地: 熊本上益城町惣領 1958

設立年月日: 平成5年7月

生産者数: 30名



安全で美味しく高品質、安定供給

上益城町は、白川と坪井川、有明海に囲まれた三角州の開拓地でもそも塩分濃度が高い土地です。それを活かして、熊本県の塩とにがり直接玉ねぎの葉に散布しミネラルたっぷりの玉ねぎを生産しています。マルチシートに直径8ミリの穴を開け苗を植え付けます。不必要に大きな穴は雑草を生やすだけになるので、8ミリの大きさを守っています。また、マルチシートの色を工夫し、できるだけ雑草が生えないように努力をしています。

玉ねぎは、苗の段階でマグネシウム(にがり)に漬けて病気の予防をしています。玉ねぎを植えるのも抜くのも手作業。重労働ですが苗を傷めないよう細心の注意を払っています。

圃場の畝の高さが低いと大雨の時に冠水し、高いと下からの水が上がりにくいので調節が大変です(畝を作るためのトラクターは100軒の農家の内10軒しか持っていません)。

また、土地が傷むことや、連作障害を防ぐために、間に

農作物のことを分かってもらいたい

島原市加津佐町は、長崎県の南に位置した雲仙・平成新山を中心とした島原半島から諫早市の平地より標高200m位の所で、この地域ならではの石積した段々の圃場が連なっています。

温暖な気候と適度な降雨量、日照時間にも恵まれた土地で、農作物には最適な条件が揃っています。その加津佐町にある供給センター長崎は、平成23年11月、ながさき農林業大賞「長崎県知事賞元氣ビレッジ」を受賞した活力ある組合です。

ここ長崎は、水産業が盛んです。そこに汚染された水は流せません。有機栽培は地域のためでもあります。

畝を覆って作物を栽培するマルチ栽培を行い、除草剤の使用回数を極力減らし安全、安心な栽培に取り組んでいます。また、収穫時も玉ねぎは切り口からの傷みが早いので、一つひとつ手に取って、ていねいにハサミで切り落とすなど、気を配っ

稲作をして、良い土になるよう工夫しています。

昨今の異常気象に対応していくため、エルニーニョ現象、ラニーニャ現象が起きそうな時は早めに予測をたてどの品種が強いかを見極め苗づくりをしています。約40年の玉ねぎ作りの中で培われた経験と実績がものを言いますが、今年の気象は全く経験がないもので、かなりの数の苗がだめになりました。また、日本だけでなく、オーストラリア、ニュージーランドの天候が悪いと種が出来ないため、玉ねぎの価格が高くなります。日本だけでなく、世界の環境についても考えなくてはというところを、改めて感じました。

一口メモ

にんじんのへたの色
冬場、にんじんのへたの部分
が黒いのは、葉が枯れている
ため、青い色はありません。
腐っているわけではないので、
食味や品質には影響はあり
ません。

一方、私たち消費者に

とって、耳に痛い話も伺いました。「じゃがいもに土が付いている」「ペランダに出しておいたら緑になった」というようなクレームが寄せられることがあるそうです。生産者の方にとっては、どちらも当たり前のこと。野菜についての知識がなければ、当たり前のことにもクレームをつけてしまうことになり「常識が常識でなくなるのは学ぶ機会がないからでは」との言葉に、私たち自身も、もつときちんと農作物について学んだり、皆さんにお知らせしたりしなくては、と思いました。

「農薬や化学肥料をたくさん使えば形も良く立派できれいな農作物は作れますが、そんな事はしたくない。農作物のことを色々分かってもらいたいです」という言葉に、私たちも応えていかなくては、と思いました。

一口メモ

おぼえておいて!

じゃがいもは、光にあたり緑化することで、有毒なグリコアルカロイド(ソラニン、チャコニン)が生成されます。蛍光灯の光でも緑化が進むので、保存は光の当たらない涼しい場所で! また、リンゴと一緒に保存すると、エチレングスの影響で発芽しにくくなります。



マルチの使用や、除草の機械化によって、葉に頼らない安全農法を心掛けています。



海岸沿いから山間地まで圃場が広がります。山間部は石垣で積み上げた畑が多く、降雨による土砂の流出には苦労します。

玉ねぎ



選別・点検作業。機械で2回、人の目で1回、計3回の選別・点検をしています。



畑で熟してしまい、割れ等が発生し廃棄されたトマト。

トマト



透明マルチだと雑草が生え、黒いマルチだと玉ねぎの生育状況がわからない。そこで緑のマルチを使ってみると、草も入らず、目で生育がわかるように。

参加理事の感想

急斜面に石積みの段々畑は一つの畑の面積が狭く機械化はできません。丁寧に手作業で栽培しています。国土の狭い日本では、このような栽培方法で頑張っている生産者を大切にしていかなければならないと思います。皆さん実直で素朴で安心・安全は当たり前、長年の経験と学習で気候と向き合っており美味しい農産物を作ろうと頑張っています。苦労も障害も笑って話してくださり、熱意や誇りが伝わってきました。

生産者より コープしがのみなさんへ

正会員 33名の内 11名が 40歳以下で、若い後継者が育っています。日本の農業の動き、産直組織としてのものの動き、栽培方法など、すべて身につけていることを組織の産直基本方向姿勢として引き継いでいます。

参加理事の感想

玉ねぎの苗を作るために種を取る事が普通の事だと思っていましたが種は全て輸入に頼っていると聞き驚きました。輸入される種は殆どがF1だと聞き再び驚きました。

[F1] (first filial generation) とは交雑によって生まれた「一代雑種」。このF1種は常にそろった品質の野菜ができ生育も早く収量も多く、生産農家にとっては栽培計画が立てやすく、歩留まりもよいというメリットがある。しかし多く、生産農家にとっては栽培計画が立てやすく、歩留まりもよいというメリットがある。しかしその反面、化学肥料を多く投入すれば作物はよく成長するが一方で雑草もよく繁茂し、その分除草剤の量も増え、長期的には土壌の劣化や害虫の発生などで栽培が困難になり、収量が減ることになる。

生産者より コープしがのみなさんへ

除草剤を使わず安心な玉ねぎを作っています。滋賀の皆さん、一生懸命に頑張っていますので、手間ひまかけて作った玉ねぎを一度、生で食べてみてください!